

言語教育におけるユニバーサルデザイン化を考える

植村麻紀子（神田外語大学）

中川正臣（城西国際大学）

山崎直樹（関西大学）

3月2日に開催した本特別企画では、言語教育におけるユニバーサルデザイン化（以下：言語教育におけるUD化）とはどうあるべきか、そしてそれを実現するために現状の「何を」、「どのように」変えていくべきかということについて、参加者の皆さまとディスカッションをしました。

まず、前半は、発題者である私たち3人が言語教育におけるUD化を考えるようになった経緯について報告しました。概要は以下の通りです。

「療育センターで出会った子供や、韓国語スピーチ大会に出場した脳性麻痺の高校生の姿を見て、このような学習者の外国語学習はいかに保障されるのか、そのために大学で韓国語を教える自分は、今、何をしているのか、今後、何をすべきなのかということを考えるようになった（中川）」

「震災の経験から、我々がふだん使っているコミュニケーションの有効でないとき、我々はそれに対処するリテラシーを持っているか、外国語教育でよく使われるCan-do能力記述文は、些末な手段に囚われ、みんなが同じことをするように強制していないかという疑問をもつようになった（山崎）」

「発達障害についての報道（テレビ、新聞、ネット等）をよく見るようになり、障害や情報保障に関する書籍を読んだり、研修に参加しているうちに、いままで（いまも）教室で向き合ってきた学生の中には、様々な困りごとを抱える学生がいたのではないかと、本人の努力不足、能力不足だけが原因ではないのではないかと思うようになった（植村）」

このように私たち3人が言語教育におけるUD化を考えるようになった経緯は一様ではありません。しかし、私たちは、これまで「平均的な学習者」のイメージに基づいて設計されてきた言語教育は、実は、学習者にとって、越えることの困難な、あるいは不可能な障壁となっているかもしれないという共通の問題意識を持ちました。また、この研究を進めるうちに、言語教育におけるUD化はその使用者を選ばず、〈すべての学習者〉の学びの質を保障する、あるいは向上させるものであることを知りました。

これらのことを踏まえ、後半では、〈すべての学習者〉の学びの質を保障するために、私たち教育関係者は、教育現場において何を、どのように変えていくべきかについて議論しました。

議論は白熱し、参加者の方々からは様々な意見が聞かれました。言語教育におけるUD化自体については、個々の特性を配慮するとは言え、個別対応でない限り何かしらの枠組みが必要ではないかという意見が見られた一方、言語教育におけるUD化は一般化を目指すのではなく、個々の学習者に目を向けるべきだという意見もありました。また、学習方法については、アクティブラーニングが主流となりつつある現在、それに馴染めない学習者には複数の選択肢を与えるべきではないか、画一的ではない学習参加の方法を模索するべきだという声があがりました。一方、教師の役割について、学習者の能力不足で済ませるのではなく、現状を認識し、医療機関等と連携していくなど、教師の専門性を高めていく必要があるという声も聞かれました。

漠然とした私たちの問いかけに対し、参加者の皆さまからはご自身の教育現場における事例や、ご自身の家族の事例などをお話いただき、言語教育におけるUD化の必要性とその難しさ、今後の課題について議論できたことは、私たちにとって貴重な時間でした。特に、ある日本語教師の参加者の方から出た「日々、多様な学習者と接している国内の日本語教育こそUD化を進めるべきだ」という意見は、中国語教育、韓国語教育に携わる私たちにとって、日本語教育関係者との連携の可能性を実感することができました。

私たちは、その後、3月31日に『〈すべての学習者〉の学びを保障するために我々は何を変えるべきか』というテーマの研究集会（第15回外国語授業実践フォーラム主催、於 関西大学<http://incl4lang.html.xdomain.jp/event01.html>）を開催し、日本語教育を含めた様々な言語教育関係者と「言語教育におけるインクルージョン」に関する議論を行いました。ここでいう「インクルージョン」とは「何者をも排除しないこと」、「言語教育におけるインクルージョン」は「言語教育の場において何者をも排除しない」という意味です。今後も、様々な教育関係者との対話の中で、「言語教育におけるUD化」を追求し、「言語教育におけるインクルージョン」を実現していきたいと思えます。

本特別企画における当日の配布資料：<http://incl4lang.html.xdomain.jp/event02.html>

※ 私たちの活動は、今後も下記で報告をしていく予定です。

「言語教育におけるインクルージョンを考える」：<http://incl4lang.html.xdomain.jp>